

平成23年10月(2011年)No.550

第51回OMC映像フェスティバル 盛会にて無事終了

今回から司会に細井靖子さんを起用

今年は3月11日の東北大震災、福島原発事故、それに9月に入って和歌山の土砂災害等々、大きな災害に見舞われ、避難生活など余儀なくされている方々が大勢いらっしゃるなか、私たちは普通に生活し、クラブ例会を楽しみ、映像発表会を催すことが出来る、ということは本当に有難く幸せに感じます。

第51回OMC映像フェスティバルは、元の大阪中央会館にて開会しましたが、受付開始前からご来場してこられる方もあり、ほぼ満席の大盛況でした。明るいプロジェクター設置に助手の方を同行されてご協力いただいた黒田先生、映写担当の関、江村の両氏、照明係の上田、宮井、河合氏等その他受付等々大勢の会員諸氏のご協力にてトラブルなく無事終了したことに、ほっとしております。

なお今回は会長の体調が悪く、司会を細井靖子さんに依頼し、大役を無事はたして頂きました。細井さんありがとうございました。

岐阜から吉田瑞穂夫妻が見えになり、作品のレベルが高いと、おほめの言葉を頂戴いたしました。吉田氏は数々の全国コンテストでグランプリをおとりになっておられるベテランの映像作家の方です。

■予告

①1月例会は例年通り第2日曜1月15日13時からとなりますので予定表など書き入れておいて下さい。その日の夜は新年会を催します。

②12月例会日(24日)13時より幹事会、15時より世話役会を開きます。

■公開映写会：10月23日大阪アマチュア映像祭。29日堺・撮れとれ映像祭

10月例会のお知らせ

10月例会日22日(第4土曜)の午後6時より、いつものJR難波駅上4階難波市民学習センターにて開催します。季節も良くどうぞ月1回の例会を楽しみにご来場ください。作品(テープ、ブルーレイ等)の方もどうぞ。

9月例会のレポート

先月号でご案内の通り、今月から新しい機材が導入され例会上映を行うことになりましたが、当初は新しいハードに不慣れなことや、記録用DVテープの録画が不調だったこともあり映写準備に手間取りました。そのために出品15作品中、関作品1本が来月廻しになりました。今月の司会は吉岡さん、書記、前田さん、映写担当は、井上、河合、江村の三氏、受付は紙本、華岡の両氏の担当で進行しました。

■出席者：天草、有村、井上、上田、江村、岡本、紙本、河合、蟹江、黒田、合原、進藤、関、高瀬、西村、華岡、船橋、前田、宮井、森下、森口、森田、吉岡、渡辺の24氏。作品数は14本でした。

■上映作品（今月の講評は前田世話役）

1. 白浜・海の叫び(HDV)

前田茂夫 9分51秒

7月例会の前に時間をとって公開審査をした時の入賞作品ですが、この時の出席者は14名しかいなくて当日の例会出席者の半数弱でした。撮影会は会の公式行事であり、多くの会員に見てもらってはどうかということが入賞作品は例会でも上映することになりました。作品のコメントは8月号に掲載されていますのでここでは割愛します。来月は宮崎作品の予定です。

2. 笹キリコと若者たち(HDV)

河合源七郎さん 11分45秒

4月例会で上映された作品ですが、気に入らないシーンがあってこの8月にまた撮り直しに行かれ凡そ2割を入れ替えたそうです。よりよい作品を追求する作者の姿勢がよく判ります。輪島まで再度取り直しに行かれるという妥協を許さない作者の行動力に頭が下がります。前作品もいい作品でしたが、私なら「まあこれでいいか…」と妥協してしてしまいますが、作者はそこが違います。作品を見比べてみると、若者達が祭りを楽しむアップの映像を多く取り入れられており一段と迫力が増しています。特に太鼓を打ち鳴らす少女のアップは迫力がありません。10分に収めて全国コンに出品して欲しい作品と思います。

3. 夏休みの思い出(BD)

有村 博さん 9分29秒

お孫さん達と一族で、神戸花鳥園を訪問し一日を楽しく過ごしたホームビデオです。他のクラブで14分は長いので短くしたらとのアドバイスで10分以内に再編集をされ出品されました。前作との比較で司会者は短くなった分映像が引き締まりよくなったとのコメントです。アデリーペンギンのパレードから始まって、圧巻はふくろうの空中飛行です。ふくろう飛行の芸は前にどなたの作品でも見ましたが、何度見ても迫力がありません。本来夜行性のふくろうが訓練によって昼間でも飛行するようになるのかと、飼育員の苦勞に拍手したいです。他にも水鳥と錦鯉とが仲良く餌を食べるほほえましいものでした。お孫さんをはじめ家族の楽しそうな情景がよく伝わってくる作品です。

4. 大蛇山まつり(HDV)

紙本 勝さん 11分40秒

炭鉱の町だった大牟田の夏祭り風景です。作品はプラスバンドの演奏から始まり、炭坑節を踊る1万人の総踊りへと続きます。なかなか壮観な情景です。全国的に知られる炭坑節のルーツは諸説があって、三井三池で生まれたものではないそうですが、大牟田市民に根付いた踊りです。続いて大蛇山まつりに移りますが、370年前頃に祇園祭と竜神信仰とが結びついて祭りの原型になったとか。大きな大蛇の山車を繰り出し盛大に練り歩きます。火薬を使って蛇の口から火炎を吐き出し派手な演出がされています。なかなか勇壮な祭りで大牟田の人の心意気が伝わってきます。祭りを撮ったら最右翼の一人である作者だけに見応えのある作品に仕上がっています。イントロのプラスバンドは要りませんね。

5. えびす万灯籠(HDV)

吉岡貞夫さん 14分0秒

冒頭に司会者から、神社へ納めた作品で少し長いですが…。とのコメントが有って上映に移りました。作者は西宮神社の行事記録を全て任されているお抱えカメラマンの役を仰せつかっておられるようで、西宮神社の殆どの神事を撮影されています。それだけに一般人が絶対に入れない神殿の奥まで入ったの撮影が可能そうです。それだけに私たちの眼に触れないシーンが数多く登場し、興味深く鑑賞できます。神前に

はゆるキャラも2体登場し、和やかさを演出しています。拝殿前で神事により御神火は切り出され、氏子や子供達がカップロウソクに点灯していきます。その数は約5,000とか。夕闇が迫るとぼんやりとした光に幽玄の世界が演出されます。舞台では女人による色彩豊かな舞楽が演舞され幽玄の世界に一層引き込まれます。作品的には内容が濃いので長くは感じませんでした。作者が云われたように例会用には舞楽の説明を簡略化する等してもっと短くしたほうが良いでしょう。神社の神事という神秘性からだんだん離れて世俗的になるような気持ちを抱いたのは筆者だけでしょうか。

6. やめられない(HDV)

宮井 健さん 3分20秒

いつもユニークな作品を持参される作者ですが、今回も自作自演によるとても思いつかない作品です。アルコール、タバコ、甘いもの等嗜好品がありますが、作者にとって一番止められないものは、テレビ放送の録画だそうです。その対象もあらゆる分野に跨っていて、その数は膨大だそうです。一生懸命録画した映像を何時見るのだろうか気になりますが、録画したものを観るより、録画することに意義を感じておられるようで、録ることが趣味の世界のようです。余生で全部観られたら幸せですね。

7. 大阪城梅の花の頃(DVD)

松橋喜敏 9分40秒

お住まい近くの大阪城を写した作品です。殆どの作品は大阪城がテーマで、毎回綺麗な映像を見せてくれます。このところ作者の腕も上り調子で、以前の作品とは見違えるように上達されています。以前はパンニングがギクシャクしていましたが、今回は実にスムーズなパンニングです。三脚は買い替えていないそうで、撮影技法の上達の度合いがわかります。気になることは、カット替りに各種のディゾルブを使い分けていますが、映像制作の基本はカット編集を旨とすべきです。止むを得ない場合はディゾルブを使ったり、その他の手法を使うことはいいと思いますが、この作品は極力カット編集で通すほうがいいでしょう。

8. エダムチーズマーケット(HDV)

井上勝彦 7分03秒

オランダ・エダムの街のチーズマーケッ

トを3Dで録ってこられました。機器の事情で2Dでの上映です。チーズ取引市は売り手と買い手の真剣勝負のようです。相手の手を叩き合って合意を促す様は見えて可笑しささえ感じました。双方に生活が掛かっていますから真剣にならざるを得ない理由はよく判ります。ストーリーは水路のある風景に移っていきませんが、本当にヨーロッパの絵画にあるような綺麗な風景という一言に尽きます。このような風景は日本では決して見られない景色です。単なるオランダ旅行記かと思いましたが、やはり立体写真・ビデオ国際大会への出席が主目的であることが最後に明かされました。

9. 新春余部(HDV)

江村一郎 6分40秒

この作品も一緒に行動して撮った映像が全てで興味深く観ました。作者の持ち味であるアップでの切り取り映像が存分に取り入れており、同行した者として非常に参考になります。この作品も撮影の上手さ、何故このカットがここでという意表を突くカット繋ぎの編集の巧みが遺憾なく発揮された作品であり、いわゆる江村調とでも云うべき作品の一つです。シーンの流れからストーリー性を感じ取るのではなく、全体の雰囲気から感覚を研ぎ澄ませて余部の印象を感じて欲しいという作風で筆者には真似の出来ない映像詩です。

10. 妻の誕生日(HDV)

合原一夫 15分40秒

奥さんの76歳の誕生日の日にケーキを前にして、二人で語りあい、奥さんが大病を患ったこと、楽しかった旅行のこと、九州の炭住時代から東京へ出て安月給だった建設会社時代、万博時代に寝屋川の社宅に親戚縁者、知人等が大勢でやってきて宿泊施設になった懐かしい思い出など語られます。語りの間に当時の8ミリ映像やビデオ映像などを織り込んで結婚後50数年に及ぶ二人の人生を描いておられます。なんとも夫婦仲のいい姿に微笑ましくなります。奥さんは6度にわたる大手術にも負けずに再起され、尾瀬や、海外旅行に何度も行かれたことは驚きです。大病に負けずに強く楽しく生き抜くという人生哲学を感じます。70歳からの人生はおまけの人生と語られていますが、もっともっと長く元氣

に生きて余生を存分に楽しんで下さいと願わずにはおられませんでした。

ホームムービーの原点中の原点ともいべき作品で二人の人生を淡々と語り、過去を振り返るとい合原さんらしい素晴らしいホームムービーです。作品の構成として二人の会話に過去の映像を織り交ぜていますが、会話はそのまま残して、近所の公園を二人で散歩する等、カメラをもっと屋外に持ち出してさらに画に変化をもたせた方がよいのではないかと、ふと思いました。

11. 北山杉伝統技法本仕込み(HDV)

高瀬辰雄 13分20秒

床柱に使う北山杉の皮むきから自然乾燥までを山の中で行われる本仕込みという独特の伝統技法を紹介された作品です。本仕込み技法を一般に公開することによって、多くの人々に知ってもらい跡を継いでくれる若い人を育てて行きたいという大きな願いがあるそうです。一般の人に山に入ってもらい、急斜面を登って行って本仕込みの現場での作業を見学すると、危険と隣り合わせの大変な作業であることがよく判りました。1本の親木を中心に周りの生きている木を束ねて、上部を紐で括り廻り木に登って上から木の皮をヘラで全て剥ぎ取って、自然に乾燥させるという先人の知恵が詰まった技法です。5～6年前に一度廃れたそうですが、先人の優れた技法をこのまま絶やすのは惜しい、後世に伝えたいと復活させ、広く知ってもらって若い人に伝えたいとの大きな願いがあります。このような伝統技法によって良い床柱が生産されていることは驚きでした。安い外国材の大量輸入によって日本の林業が壊滅的な打撃を受け何処の山でも荒廃していることは良く知られています。大変珍しい素材を扱っており、よくまとめられた立派な作品ですので、10分以内にされて全国コンテストに出品されたいいのではと思います。

12. 飛騨の里(HDV)

天草 稔 6分23秒

豪雪に耐えてきた合掌造りの民家を高山に移築し保存している展示施設が作られています。高山の飛騨民族村「飛騨の里」を撮ってこられました。美しくライトアップされた合掌造りの民家から始まります。この日は雪が膝まで積もっていたようです。

屋根に積もった雪と合掌造りの急勾配の萱葺きの屋根はまさに日本の原風景です。そのような情感あふれる民家と降雪の情景をパソコンで被せていますが、画面の一部分しか降らせていないのと、ワンカットの中の数秒しか降らせていないのが何とも惜しまれます。たとえ合成と判ってもワンカットの全画面、全タイムを降らせて欲しかったと思いました。しかししっとりとした情感は伝わってきました。

13. オランダ風車とベルギー散策(BD)

蟹江利一 10分15秒

オランダの風車少し見せてからベルギーへ移動します。ブリュッセルでは、小便小僧や小便少女などの名所が紹介されます。ヨーロッパの街は井上作品もそうですが、本当に美しいという表現がぴったりします。石造りの建物で荘厳な感じがするのと、東アジア地域のように電柱がないせいだろうと思います。はじめて電気を引くときに日本は電柱を立てて空中架線とし、ヨーロッパは地下に埋めた、この社会資本の差は歴然としています。居ながらにしてオランダ、ベルギー旅行をしてきた気分でした。

14. チンチン電車で歴史散歩(HDV)

渡辺雄史 11分30秒

あべのから住吉公園までの阪堺線に途中の歴史を絡めて見応えのある紀行作品を作られました。発足時の馬車鉄道の写真から、沿線各駅の背景までよく調べておられます。落ち着いてしっかり作られたいい作品です。なかなかの力作です。しかし、SEとナレーションの処理を配慮されたらもっと聞きやすくなります。ナレーションに被って電車のSEが突然出てきますが、SEの音声が大きすぎるので驚きます。もっとSEの音を絞るほうがいいでしょう。SEに限らずカット替りの音声には、オーディオトランジションのクロスフェード・コンスタントパワーを掛けておくといいでしょう。ナレーターに依頼した語りですが、口元とマイクの距離が遠すぎるのではないかと思います。30cmでは遠く、10～15cmくらいに近づけたほうが音量も大きく、低音もしっかり録音されます。但しマイクに近いとポップノイズを拾うので、その対策をしてください。ガーゼのハンカチを1枚垂らすだけでポップノイズは防げます。